

5. 地方自治体の将来人口推計と人口関連施策への認識—アンケート調査の結果より—

..... 山内 昌和 (国立社会保障・人口問題研究所)
西岡 八郎 (国立社会保障・人口問題研究所)
小池 司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)

なお初日の会員総会において学会賞の授賞式がおこなわれ、和田光平会員 (『Excel で学ぶ人口統計学』オーム社, 2006年9月) に普及奨励賞, 小林淑恵会員 (『結婚・就業に関する意識と家族形成: 循環モデルによる検証』『人口学研究』第39号, 2006年11月) に優秀論文賞, 大友篤会員 (『続人口でみる世界: 人口変動とその要因』古今書院, 2006年11月) に学会特別賞が授与された。

(佐藤龍三郎記)

日本人口学会2008年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会の2008年度第1回東日本地域部会が2008年9月12日, 札幌市立大学サテライトキャンパス (北海道札幌市) にて開催された。人口移動に関する報告が多数を占め, 地域部会の特性を活かした丁寧なプレゼンテーションと活発な質疑が交わされた。報告タイトルと発表者は下記の通りである。

1. 「所属世帯別高齢人口の将来動向と変化要因の分析
—日本の世帯数の将来推計 (全国推計: 2008年3月推計) の結果分析—」
山内昌和・西岡八郎・鈴木透・菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)
2. 「都道府県間人口移動流のモデル化とその経年変化分析」
小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
3. 「団塊世代の農村定住条件と就農条件—郵送調査とインターネット調査の比較による考察」
飯坂正弘 (独立行政法人/農業・食品産業技術総合研究機構)
4. 「2005年の市町村間通勤マトリックスと通勤圏設定の試み」
大林千一 (帝京大学)
5. 「1970年代までの東北と北海道の間の『移民』と『出稼ぎ』」
阿部 隆 (日本女子大学)
(山内昌和記)

日本地理学会2008年秋期学術大会

日本地理学会2008年秋期学術大会は, 10月4日・5日の両日, 岩手大学 (岩手県盛岡市) において開催され, 例年同様, 幅広い分野における報告やポスター発表があった。今回は東北地方での開催ということで, 『新「東北の将来」を語る』と題したシンポジウムが企画され, 多数の参加者でにぎわった。本シンポジウムでは趣旨説明の後, 日本女子大の阿部隆教授より「東北の人口—過去, 現在, そして未来?」のタイトルで東北地方における将来人口の試算推計結果などが報告され, 続いて都市・工業・農林業など地理学に関連する様々な研究領域からの報告と総合討論が行われた。人口減少問題は全体を通して強く認識されており, 様々な社会経済活動の基盤としての注目度は非常に高かった。厳しい状況には変わらない東北地方であるが, 従来時代の流れにあまり左右されなかったことは有形・無形の資源残存につながり, 今後の人口減少社会ではそれらが再評価される面もあるのではないかと感じた。